

皆野長瀨ロータリークラブ

週報

- ◇例会日 第1・第3木曜日 12:30~13:30 第2・第4木曜日 18:30~19:30
- ◇例会場 長瀨レクリエーションホテル 養浩亭
- ◇事務所 〒369-1305 秩父郡長瀨町長瀨1446 養浩亭内
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134
e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp
- ◇点 鐘 山田 利明会長
- ◇ソング 奉仕の理想



第1345回例会 平成28年1月7日(木)

会長の時間

山田 利明

明けましておめでとうございます。会長になって半年が過ぎました。あと半年という事で、時間が経つのは早いかなと思います。今年のお正月の天気は暖かく穏やかでした。お正月らしくないという事で、山に雪もないという事で、私の趣味も芳しくありません。



平成28年は丙の申年です。小菅さんが毎年干支の話で来てくれていたのですが、年を取ったので去年が最後という事です。丙が神様に捧げる機の格好をしているらしいです。申は人間が伸びきった様子、鉄棒につかまっている様子を申と書くという事で、最高に伸びきった最大の年だという事です。だから昨年剪定をしろと。そうでないともっと伸びきって今年耐えられないと。最大限に伸びきった状態なのでその後下がってくるかなと。精一杯で完成した状況であるという事です。

縁起の悪い事は嫌いなので縁起のいい話をしたいと思います。門松はなぜ竹、松、梅と南天があるのかなと思います。南天は難を転じると。赤は邪を払う。松は常緑樹で永久不変の意味で1年中上に向かうという事で、縁起のいい木だそうです。竹は雪が降ってもたわんでも折れない。しなやかな強さがある、旺盛は生命力が養われるという事です。梅は龍神が宿る木。梅の種の中には神が宿っていると。それで松、竹、梅、南天をさして門松にすると。すべて縁起のいい物を集めてあるので、正月から縁起がいいようにと門松を立てるようです。鏡餅の上には本来橙を乗せます。食べられないみかんです。橙は1年中青葉で黄色い実がなるので縁起のいい木だそうです。

お正月はすべて縁起のいい事から始めたいという事です。



幹事報告

宮前 英雄

1. 地区事務所より
 - ① 2017-18年度ガバナー推薦指名委員会委員について
 - ② 財団室ニュース
2. 米山記念奨学会よりハイライトよねやま
3. ロータリーの友事務所より事業報告
4. 年賀状



いい話



横田 博次会員

内容に入る前に今年早々いい事がありました。ミニミニサイズのいい事です。蕎麦はお袋が平成7年に亡くなって間もなく蕎麦を打つようになったので約20年選手になっています。これまでは地元のそば粉で5割くらいから始めてそば粉の割合が増えていって、秩父のそば粉を使ってつなぎが3でそば粉が7の割合でした。いつも使っているそば粉が旧荒川村にそば道場がありますが、そこで出している粉が毎年品質が同じなので良かったので使っていましたが、ここ2年ばかり不作のようでそば粉が手に入りませんでした。仕方がないのでネットで探して、北海道のそば粉を使いました。説明に10割で打てますと書いてありました。本当かなと思って正月に使ったところ、10割でつながりました。能書きにも書いてありましたが、腕がどうのと言っても根本はそば粉であるという事がよく分かりました。いいそば粉を使えば10割蕎麦もちゃんと打てるのだなど。そんな初体験を致しました。

ノーベル賞の話をしたと思います。生理学賞を化学の関係で大村智さんが2億人の命を救ったという事で受賞、物理学ではニュートリノに質量があるという事で梶田隆章さんが受賞しました。私が注目したのは大村さんです。昨年

の暮れだったと思いますが、朝早くラジオを聞いていたところ、大村さんが話していました。大村さんはかなりの資産家です。美術館を建てたりとか北里研究所が大赤字でどうしようもなくてつぶそうかという話が出た時に立て直して今も成り立っている。大村さんが立て直したのですが、経営の才覚も持ちあわせていると。もともとは高校の先生から始まって、墨田工業の定時制の先生を5年間やったという話もありました。当時の定時制の生徒は、本当にお金が無く働きながら勉強するという子達がほとんどだったと思います。そういうのを見て自分も勉強しなくてはやったと思います。やり方ですが、当時の古典的な研究をなさる方は、産官学の連携とか言われますが、産との連携は嫌いました。産業界と手を組むという事は、儲けにつながらない事は産業界はやらないと。研究をしていてもある方向にねじ曲げられてしまうと。研究費の事がありますので、そうなるという事を聞かなければ研究が続けられなくなると。産業界と手を組んでという事は、昔の世代の大学で研究するような方は嫌ったんでしょうね。ところが大村さんは最初から産業界と手を組んでやろうと考えていたようです。他の研究グループからは批判もあったようですが、それによってノーベル賞につながるような研究を行ったという事です。産業界もご本人もそうですが、特許です。権利についてもしっかり考えていて、全ての物について特許を取ってきたと。それが2億人の生命にもつながる事にも、開発した企業、本人にも特許料として莫大な金額が入ってくるという事で、何百億という資産をお持ちであると。その資産は研究による特許料で出来たと。商標登録というのがありますが、日本の昔からの老舗で商標を持っている所は、商標登録をわざわざしなくても、この看板は何百年も前からうちの看板ですよというのが当たり前で他では使えないというのが日本の中では通っていますが、中国などでは同じような物がどんどん出て来て、使うなど言った時にそっちでも商標登録してありますという事になって、どっちが強いのかという難しい話になります。最近はそのような事は少なくなってきたと思いますが、あらゆる商標に関する事は登録商標を行って、国際的に勝てるという考え方になっています。大村さんはかなり先見の明があって、過去には批判を浴びた事もあるようですが、産業界と手を組んで、お金がないと研究は続けられないとラジオで強調しておりました。お金の算段についてもしっかり考えていかなければ思うような研究が続けられないという事だと思います。研究の分野が化学、微生物に関係するという事で、一緒に研究するという事においては薬の世界ではやりやすかったのではないかと思います。物理学賞の梶田さんについては、ニュートリノの質量発見と言っても我々にはなかなか理解出来るものではないので、産業界と手を組むと言ってもすぐに産業化、事業化出来る事ではなく、宇宙の根源を探っているような世界の話ですので、何百年かの内にはもしもという事があるかもしれませんが、すぐどうのという事はないかと思えます。そちらの話もおもしろいので、機

会があればお話ししたいと思います。

本当は仕事に関係した話、教員が外部で仕事の話をする事はないので、仕事の話をするのも悪くないかなと考えております。これも機会があればお話ししたいと思います。

大村さんは経営的な感覚にも優れていて、そういう感覚がなければ、これだけの成功を収める事は出来なかったでしょうと。自分の研究が自分が生きている間に世界で役に立っているという事も素晴らしい事だだと思います。中身の事もそうですが、そこに結びつける事が出来たのは、単に研究者であったとだけではなくて、経営的な視点で物を見る事が出来たという事で、そういう感覚はいつの時でも大事にしないではいけないのかなと思います。研究一筋の人でもそういう事を考えながらやってきて大成功に結びつけているという所あたりが大変勉強になりました。



四つのテスト

宮前 英雄会員

明日が誕生日で73才になります。昨年の千支の話でいろいろな事で剪定をなささいという事でした。私も大ナタを振るったという事ではないのですが、毎年人事異動で1割くらいの人が動くのですが、その中で2人辞めました。その2人の年間の占める給料は1,200万くらいでした。今は改革をしているのですが、仕事はある程度出来るのですが、若い人の冠になるのではなく、頭に乗って重しになっていた事が減ってきています。厳しいのですが、頑張っております。

出席率

免除以外の 会員	出席免除 会員	出席	メイク	出席率
12	0	8	1	75.0%

